

金ケ崎町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>1 北上川流域における自動車産業に対する集中的投資について (1) 北上川流域に特化した岩手県土地開発公社を活用した産業用地の造成・整備 (要旨) コンパクトカーの国内最大の製造拠点である北上川流域に岩手県としても集中的に投資し、産業集積の機会を確実にとらえ、本県のさらなる産業振興を進められますようお願い申し上げます。 (現状と課題) ・北上川流域は、岩手県における自動車産業の重要拠点として位置付けられており、この地域で岩手県全体の製造品出荷額等の6割以上を占め、県の税収確保にも大きく貢献している。 ・トヨタ自動車東日本(株)は「Toyota Compact Car Company」の中心として位置付けられ、今後新たな車種の岩手工場での製造が見込まれ、それに伴う新規企業立地も大きく期待できる。 ・新たな工場用地の確保、技術者の育成、物流路線の維持、整備などが課題である。 以上のことから、次の事項について要望いたします。</p> <p>1 北上川流域に特化した岩手県土地開発公社を活用した産業用地の造成・整備</p>	<p>地方経済の活性化を図る上で産業振興、とりわけ自動車産業の果たす役割は極めて大きく、そのための基盤整備も重要であると認識しているところで す。 今後の産業用地の整備の在り方については、自動車産業をはじめとした業界の動向を見極めつつ、必要な検討を行っていきます。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>経営企画部</p>	<p>C</p>
<p>1 北上川流域における自動車産業に対する集中的投資について (2) 技術者をはじめとする人材の育成 (要旨) コンパクトカーの国内最大の製造拠点である北上川流域に岩手県としても集中的に投資し、産業集積の機会を確実にとらえ、本県のさらなる産業振興を進められますようお願い申し上げます。 (現状と課題) ・北上川流域は、岩手県における自動車産業の重要拠点として位置付けられており、この地域で岩手県全体の製造品出荷額等の6割以上を占め、県の税収確保にも大きく貢献している。 ・トヨタ自動車東日本(株)は「Toyota Compact Car Company」の中心として位置付けられ、今後新たな車種の岩手工場での製造が見込まれ、それに伴う新規企業立地も大きく期待できる。 ・新たな工場用地の確保、技術者の育成、物流路線の維持、整備などが課題である。 以上のことから、次の事項について要望いたします。</p> <p>2 技術者をはじめとする人材の育成</p>	<p>自動車関連産業をはじめとするものづくり産業に求められる人材の育成については、県民計画第3期アクションプランにおいて、金型、鋳造、三次元設計開発、IT・組込みソフトウェア等の高度技術人材の育成を、高等教育機関等と連携して進めることとしています。 平成28年度においては、 ・岩手大学による金型、鋳造等のマイスター育成 ・いわてデジタルエンジニア育成センターや県立大学による三次元デジタル技術人材、ものづくりとソフトウェアの融合技術者(組込みソフトウェア等)など高度技術者の育成 ・工業技術センター等における高度技術研修(加工技術・評価技術等)などの事業を推進しているところです。 また、県南広域振興局においても、ものづくり企業のQCD(品質、コスト、納期)能力向上のための集合研修や、企業の課題解決のためのオーダーメイド研修を実施しているところです。 今後についても、企業のニーズを踏まえながら、取組を進めます。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>経営企画部</p>	<p>B</p>

金ケ崎町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>1 北上川流域における自動車産業に対する集中的投資について (3) 町道南花沢・前野線など、町が管理する物流路線の維持、修繕への支援 (要旨) コンパクトカーの国内最大の製造拠点である北上川流域に岩手県としても集中的に投資し、産業集積の機会を確実にとらえ、本県のさらなる産業振興を進められますようお願い申し上げます。 (現状と課題) ・北上川流域は、岩手県における自動車産業の重要拠点として位置付けられており、この地域で岩手県全体の製造品出荷額等の6割以上を占め、県の税収確保にも大きく貢献している。 ・トヨタ自動車東日本(株)は「Toyota Compact Car Company」の中心として位置付けられ、今後新たな車種の岩手工場での製造が見込まれ、それに伴う新規企業立地も大きく期待できる。 ・新たな工場用地の確保、技術者の育成、物流路線の維持、整備などが課題である。 以上のことから、次の事項について要望いたします。</p> <p>3 町道南花沢・前野線など、町が管理する物流路線の維持、修繕への支援</p>	<p>道路の維持修繕については、道路管理者が点検・補修をすることとされており、その財政措置については、これまでも国の防災・安全交付金などにより措置されているところですが、計画的に補修等を実施できるよう、県としても、国に対し財政支援を要望しています。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B</p>
<p>2 JR東北本線の利便性向上について (1) 北上駅発着の普通列車を一ノ関駅発着に変更 (要旨) JR東北本線利用者の利便性を高めるため、盛岡駅から一ノ関駅間の増便並びに通勤・通学時間帯の車両の増両について、JRへの働きかけをお願い申し上げます。 (現状と課題) ・JR東北本線は、胆江地域及び両磐地域における住民生活や経済活動に密接な関わりを持っている重要な鉄道路線である。 ・当地域は自動車関連企業をはじめ、事業所の集積が進んでいるほか、平泉の世界遺産文化登録を背景に多くの観光客が訪れており、地域内の東北本線利用者も増加している。 ・平成25年8月には、胆江地域と両磐地域にまたがる北上高地が、国際リニアコライダー(ILC)の国内候補地とされ、東北本線は、今後ますます重要な役割を果たすことになると予想される。 ・盛岡駅と一ノ関駅間の普通列車の運行は、1時間間隔であるほか、朝の時間帯の下り列車は2両編成となっている便があり、通勤や通学等に不便な状況となっている。 以上のことから、次の事項についてJRへ働きかけていただきますよう要望いたします。</p> <p>1 北上駅発着の普通列車を一ノ関駅発着に変更</p>	<p>JR線等鉄道路線については、地域の意向がダイヤ編成等に反映されることにより、利用者の利便性向上を図ることが重要であると考えています。 このため県では、毎年度JR線に係る市町村等の要望を取りまとめ、JR東日本盛岡支社に対して要望書を提出しています。 本要望事項については、平成28年6月にJR東日本盛岡支社に対して要望し、同年12月15日頃に「対応は困難」との回答が示されておりますが、引き続き地域の意向がダイヤ編成等に反映されるよう対応していきます。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>経営企画部</p>	<p>B</p>

金ケ崎町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>2 JR東北本線の利便性向上について (2) 水沢駅発及び一ノ関駅発下り車両の増両</p> <p>(要旨) JR東北本線利用者の利便性を高めるため、盛岡駅から一ノ関駅間の増便並びに通勤・通学時間帯の車両の増両について、JRへの働きかけをお願い申し上げます。</p> <p>(現状と課題) ・JR東北本線は、胆江地域及び両磐地域における住民生活や経済活動に密接な関わりを持っている重要な鉄道路線である。 ・当地域は自動車関連企業をはじめ、事業所の集積が進んでいるほか、平泉の世界遺産文化登録を背景に多くの観光客が訪れており、地域内の東北本線利用者も増加している。 ・平成25年8月には、胆江地域と両磐地域にまたがる北上高地が、国際リニアコライダー（ILC）の国内候補地とされ、東北本線は、今後ますます重要な役割を果たすことになると予想される。 ・盛岡駅と一ノ関駅間の普通列車の運行は、1時間間隔であるほか、朝の時間帯の下り列車は2両編成となっている便があり、通勤や通学等に不便な状況となっている。 以上のことから、次の事項についてJRへ働きかけていただきますよう要望いたします。</p> <p>2 水沢駅発（6：55）及び一ノ関駅発（6：44、7：26）下りの車両を2両編成から4両編成に増両</p>	<p>JR線等鉄道路線については、地域の意向がダイヤ編成等に反映されることにより、利用者の利便性向上を図ることが重要であると考えています。 このため県では、毎年度JR線に係る市町村等の要望を取りまとめ、JR東日本盛岡支社に対して要望書を提出しています。 本要望事項については、平成28年6月にJR東日本盛岡支社に対して要望し、同年12月15日に「一ノ関駅7:30発の下り列車を4両で運転し、一ノ関駅7:50発の下り列車を2両に変更する。」との回答が示されておりますが、引き続き地域の意向がダイヤ編成等に反映されるよう対応していきます。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>経営企画部</p>	<p>B</p>
<p>3 一般国道4号の4車線拡幅整備について（継続） (要旨) 一般国道4号の4車線拡幅整備の早期事業化に向け、渋滞解消、本県産業振興の観点、地方創生の取組の推進につなげるためにも、国への働きかけについて、なお一層のご高配を賜われますようお願い申し上げます。</p> <p>(現状と課題) ・当該区間は、企業アンケートの結果、渋滞対策の推進や4車線化を望む意見が出されている。 ・トヨタ自動車東日本株式会社が「Toyota Compact Car Company」の中心となり、様々な小型車の生産が集約されることになっている。 ・一般国道4号を通る交通量の増加によりや沿線の商業施設開発等と相まって、今後さらに渋滞することが見込まれる。 ・一般国道4号の渋滞を緩和して、岩手中部（金ケ崎）工業団地に係る物流の効率化、生産性の向上を図ることが不可欠である。 以上のことから、一般国道4号金ケ崎区間の4車線拡幅整備の早期事業化に向け、国へ働きかけていただきますよう、次の事項について要望いたします。</p> <p>1 産業支援としての物流効率化、地方創生の取組の推進及び地域の安全安心を図るため、一般国道4号金ケ崎区間の早期4車線拡幅整備への支援。併せて、公共事業関係費を平成21年度以前の7～8兆円規模に回復させ、地域に必要な道路関係予算の長期的・安定的な確保。</p>	<p>県では、物流を支えるとともに地域間の交流・連携を促進し、快適・安全な生活を支える道路として、一般国道4号の整備の重要性を認識しており、平成28年6月7日に行った平成29年度政府予算提言・要望において、直轄道路整備事業の促進を国に要望しています。 特に、御要望の金ケ崎区間については、自動車産業など産業集積が進む北上・金ケ崎地域の渋滞緩和・解消を図るため、4車線化の早期事業化を要望するとともに、平成29年度の事業化に向けて、金ケ崎都市計画道路の変更手続きを進め、平成29年1月17日に完了したところです。 また、平成28年8月8日、10月25日、平成29年1月31日と、貴町の御協力をいただき、合同で当該区間の早期4車線化と道路関係予算の確保を国に対して要望したほか、1月16日にも知事が国への要望を実施したところです。 県としては、引き続き、貴町と連携を図りながら、当該区間の早期4車線化と道路関係予算の確保について国へ強く訴えていきます。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B</p>

金ケ崎町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>4 県立胆沢病院の医療体制の充実について (要旨) 胆江保健医療圏への産婦人科医師の確保による周産期医療体制の充実、特に県立胆沢病院の体制強化について、特段の御高配を賜りますようお願い申し上げます。 (現状と課題) ・安心して子どもを産み育てられる環境の整備が必要となっている。 ・県立胆沢病院は、胆江保健医療圏内の各医療機関と地域医療の連携の中心であり、今後、国の方針による病床の機能分化が進むことが予想され、県立胆沢病院の重要性が増すものと考えられる。 ・胆江保健医療圏内の周産期医療体制については、県立胆沢病院が平成19年8月に産婦人科を休止し、奥州市内の出産を取り扱っていた民間産婦人科医が昨年をもって産科を休診したことから、今後の対応も含め、苦慮している。 ・胆江保健医療圏内に地域周産期母子医療センターに位置づけられる病院がなくなったことは、緊急事態であり、早急な対応が必要である。 (期待される効果) ・妊婦の不安が解消され、安心して産むことができる 以上のことから、次の事項について要望いたします。</p> <p>1 県立胆沢病院の産婦人科医師の確保対策にご尽力いただき、安心して子どもを産み育てられる医療体制の充実を図ること。</p>	<p>産婦人科の医師の確保については、これまでも関係大学に対して派遣を要請しているところですが、関係大学の医局においても医師の絶対数が不足していることから厳しい状況となっています。 県においては、引き続き、関係大学との連携を一層強化するとともに、即戦力となる医師の招聘や臨床研修医の積極的な受入、奨学金養成医師の計画的な配置などにより、医療体制の充実に向けて取り組んでいきます。 なお、県では、周産期医療を取り巻く厳しい環境に対応するため、県内に4つの周産期医療圏を設定し、胆江地域については県南圏域の中で、医療機関の機能分担と連携の下、分娩リスクに応じた医療提供体制の確保を図っているところです。 現在、国において、分娩取扱施設や医師の偏在等の課題を踏まえた周産期医療体制のあり方について検討が行われており、平成28年度中には指針を示す予定としていることから、国の指針を踏まえて、本県における周産期医療体制の在り方を検討していきます。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>保健福祉環境部</p>	<p>B</p>
<p>5 一般県道久田笹長根線の歩道整備の促進について (要旨) 一般県道久田笹長根線の歩道整備の促進につきましては、一部区間が施工済みではありますが、未整備区間の整備について、特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。 (現状と課題) ・一般国道4号から北上市和賀に至る一般県道久田笹長根線は、千貫石温泉、夏油温泉、夏油高原スキー場をはじめとする豊かな観光資源へのアクセスとして、また岩手県立農業大学校、岩手県立花きセンター及び東北横断自動車道(釜石秋田線)へのアプローチとして地域に密着した路線である。 ・北上・金ケ崎ICや一般県道前沢北上線から岩手中部(金ケ崎)工業団地等に向かう通勤車両及び物流の大型車両の交通量が急増している。 ・地元住民や保護者などから児童・生徒、高齢者等の歩行者の安全確保を強く求められている。 以上のことから、次の事項について要望いたします。</p> <p>1 一般県道久田笹長根線の歩道整備に係る未整備区間の解消</p>	<p>歩道設置については、各地域から多くの要望があることから、必要性や緊急性の高い箇所から整備を進めています。 御要望の箇所については、平成29年度は測量調査等を実施することとしています。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B</p>

金ケ崎町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>6 茅文化保存のための茅生産に対する支援について (1) 茅の生産地確保に関する支援（県有地の無償貸与） (要旨) 千貫石茅場を茅葺屋根文化財の保存修復資材である山茅の一大生産地として維持・発展させるため、特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。 (現状と課題) ・全国の茅葺屋根文化財を訪問し、当町の山茅についてPRしたことにより、県外では富山県五箇山、兵庫県、奈良県、東京都など全国各地への供給実績。 ・県内外に長期的・安定的に供給できる生産計画を作りたいところではあるが、晩秋から降雪前までの短期間で刈り取りしなければならないことや作業員の高齢化等により、ここ数年は安定生産が困難な状況。 ・山茅は茅葺屋根文化財の修復に必要不可欠な材料であり、町では、今後も優良な山茅を全国に安定供給していくため、栽培技術、機械刈技術の開発を含めた生産方法について検討しながら取り組んでいきたいと考えている。 以上のことから、次の事項について要望いたします。</p>	<p>茅の生産地については、これまでも無償で貸付けしているところですが、生産地確保のため、特段の事情変更がない限り、引き続き無償貸与していく考えです。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>農政部</p>	<p>A</p>
<p>6 茅文化保存のための茅生産に対する支援について (2) 茅生産技術向上に関する支援（県機関による茅刈技術の開発、茅栽培に関する技術指導） (要旨) 千貫石茅場を茅葺屋根文化財の保存修復資材である山茅の一大生産地として維持・発展させるため、特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。 (現状と課題) ・全国の茅葺屋根文化財を訪問し、当町の山茅についてPRしたことにより、県外では富山県五箇山、兵庫県、奈良県、東京都など全国各地への供給実績。 ・県内外に長期的・安定的に供給できる生産計画を作りたいところではあるが、晩秋から降雪前までの短期間で刈り取りしなければならないことや作業員の高齢化等により、ここ数年は安定生産が困難な状況。 ・山茅は茅葺屋根文化財の修復に必要不可欠な材料であり、町では、今後も優良な山茅を全国に安定供給していくため、栽培技術、機械刈技術の開発を含めた生産方法について検討しながら取り組んでいきたいと考えている。 以上のことから、次の事項について要望いたします。</p>	<p>本県では、茅生産における刈取技術や栽培技術等について実証・研究しておりませんが、必要に応じて茅場の生産状況を確認しながら、生産性向上に向けた技術情報の収集や提供など、可能な限り協力したいと考えています。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>農政部</p>	<p>C</p>

金ケ崎町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>7 北上川右岸治水対策事業について (要旨) 県の支援により、国の平成21年度繰越事業による三ヶ尻地区堤防の補強工事が平成23年度に完成したことに対しまして、御礼申し上げます。 引き続き、無堤防区間解消の早期実施及び北上川と宿内川の合流地点付近の崩壊防止・護岸工事について、特段のご高配を賜われますようお願い申し上げます。 (現状と課題) ・本要望箇所は、平成23年度に堤防の補強工事が完成した江崎大橋南側から一級河川宿内川合流地点までの右岸下流約1,800mのうち、かさ上げが必要な区間が約700mであり、更に下流約1,100mが無堤防区間であることから、平成14年及び平成19年の大雨・台風により、田畑に冠水被害を受けたところである。 ・国選定城内諏訪小路重要伝統的建造物群保存地区の区域境となっているほか、その上部は、金ケ崎城の東館があった場所であり、歴史的にも重要な個所である。 以上のことから、次の事項について要望いたします。</p> <p>1 かさ上げ区間約700m、無堤防区間約1,100mの解消及び護岸ブロックの上流約100mを延長する工事の早期実施への支援</p>	<p>無堤防区間が多い北上川中流部（概ね紫波町から奥州市の区間）においては、平成14年7月洪水及び平成19年9月洪水に伴い、5年間に2度も甚大な浸水被害を受けています。 国では、北上川中流部緊急治水対策事業として、まずは住家への浸水被害の軽減を図ることを優先して進めることとしており、当該地区については他地区の進捗を見ながら対応すると聞いています。 北上川の治水対策は、県としても重要な課題であり、整備促進に向け対応していきたいと考えています。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B</p>
<p>8 (仮称)新金ケ崎大橋の新設について (要旨) 奥州市江刺区と金ケ崎町を結ぶ(仮称)「新金ケ崎大橋」の新設について、特段のご高配を賜われますようお願い申し上げます。 (現状と課題) ・奥州市江刺区と金ケ崎町を結ぶ金ケ崎橋は、産業道路としても重要な役割を果たしている。 ・当該路線は、岩手中部(金ケ崎)工業団地、江刺中核工業団地、北上南部工業団地に関連する産業及び物流の重要道路でもある。 ・金ケ崎橋から県道沿い一帯は、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されていることから、拡幅等の整備が制約され、その東に位置する金ケ崎橋は、幅員が狭く歩道敷設も構造的にできない状況で、車両とすれ違う歩行者や自転車等の通行が常に危険と隣り合わせであり、大型車両等の通行ができない状況。 ・(仮称)「新金ケ崎大橋」の新設は、産業振興に寄与し、企業誘致を進める上での重要な整備であり、将来の県南部の発展のために必要な道路になると考えている。 以上のことから、次の事項について要望いたします。</p>	<p>御要望の橋梁新設については、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら検討していきますが、早期の事業化は難しい状況です。</p>	<p>県南広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>C</p>